飯山市埋蔵文化財調査報告書　第76集

田草川尻遺跡X・今井遺跡群

TAKUSAKAWAJIRI SITE　　IMAI SITES

－携帯電話基地局建設に伴う緊急発掘調査報告書－

2010．7

飯山市教育委員会

田草川尻遺跡

例　　言

１．本書は、長野県飯山市大字蓮字北原 270 番地（T 地点）に位置する田草川尻遺跡の発掘調査報告書である。本遺跡は過去 A～S 地点の調査が行われており、今回の調査地点を T 地点と設定する。

２．発掘調査は、携帯電話基地局（鉄塔）建設事業に伴い、株式会社シーテック　モバイルシステム部より委託を受けた飯山市教育委員会が、平成 22 年 4 月 12 日から 4 月 16 日にかけて実施したものである。調査面積は 38 ㎡で、集石遺構 3 基、ピット 3 基を検出した。

３．調査体制は以下のとおりである。

土 屋　稔　　飯山市教育長
森　　勝　　飯山市教育部長
中原美恵子　　飯山市教育委員会学習支援課長
望月　静雄　　同　学習支援課長補佐（兼）文化振興係長
田中　洋道　　同　学習支援課文化振興係主査
調査担当者　大平　理恵　　同　学習支援課嘱託学芸員
作業参加者　（五十音順・敬称略）　上原　章仁・清水　秀一・坪井　直樹・坪井　久
協力者・機関　浦野　愛子（地権者）・坪井建設（重機）・秋津地区活性化センター・
秋津小学校 6 年生の皆さん

４．図面等の整理ならびに報告書の執筆は、望月の監修のもと、調査担当の大平が行った。

５．調査にかかわる写真・図版等は飯山市ふるさと館に保管してある。

目　　次

例言
Ⅰ　遺跡の位置と環境
１．地理的環境　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
２．歴史的環境　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Ⅱ　田草川尻遺跡発掘調査の経緯
１．過去の調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
２．発掘の経緯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
Ⅲ　調査
１．集石　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
２．ピット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
Ⅳ　結語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

Ⅰ　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

田草川尻遺跡は飯山盆地の南端、大字静間字四本木から大字蓮字北原に位置し、千曲川の左岸に沿って南北約 60m、東西約 20m の範囲に広がっている。遺跡は飯山盆地が展開する南端の玄関口にあり、東側は千曲川をはさんで中野市岩井・田上地区に接する。中野市から飯山市域に入った千曲川左岸には、南（上流）から宮沢川、田草川、清川と小河川が多く注ぎ込み、狭い扇状地が形成されている。遺跡は傾斜度の強い田草側扇状地の末端部で、千曲川の造成した河岸段丘上にあり、千曲川からの比高は 5～6m を計る。

飯山盆地は南北長さ 15km、東西幅は最も広いところでおよそ 6km、紡錘形をした盆地で、いくつかの丘陵と平坦地が発達している。千曲川はその中央部を貫いて北流し、新潟との県境でその名を信濃川にあらためる。人や物資の運搬に大きな役割を果たしたことは想像に難くない。北陸地方、東海地方など時代を通してさまざまな繋がりが確認できるのは、水運によるところが大きいであろう。また、近年まで鮭の遡上が見られたほか様々な動植物が生息し、生業の面においても重要な役割を担ってきた川であることがうかがえる。

2　歴史的環境（図 1）

田草川尻遺跡(67)は、縄文時代から弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代にわたって断続的に集落が営まれた複合遺跡で、早くから居住や開発に適した環境であったと考えられる。

飯山地方では、特定の土地が繰り返し利用され、複合遺跡を形成することが多い。田草川尻遺跡のほか、有尾遺跡(24)、上野遺跡などは、縄文から近世にわたる複数時期の遺構・遺物が確認されており、それらの遺跡の多くは千曲川沿いの沖積地に臨む微高地に立地している。

千曲川右岸の高社山麓は遺跡調査が少なく、詳しい様相は不明であったが、木島平村根塚遺跡(86)、中野市柳沢遺跡(116)、月岡遺跡(108)など近年の調査で資料が増加し、弥生時代に高社山麓でダイナミックな人間活動の展開があったことを想起させる様々な遺構・遺物が出土した。

そうした人々が、千曲川の水運を頻繁に利用していたことは想像に難くない。千曲川を下った新潟県中越地方・下越地方と、またさかのぼって善光寺平や中信地方と、また関田山脈を越えて上越市、北陸地方との交流を想起させる資料が多く確認されており、時代を通して北陸地方と信濃を結ぶ中継点にこの地域が位置していたことがうかがえる。

周辺の市町村域も含め、飯山盆地および千曲川流域を概観すると、遺跡数が飛躍的に増える時期と、遺跡がほぼ見られなくなる時期、少数の遺構や遺物が見られる時期があることがわかる。今後、さらに詳細な調査を重ねて、土器編年の問題等もあわせ地域の動向を探っていく必要がある。

以下に田草川尻遺跡を中心とした飯山盆地周辺の各時期の概略を示す。

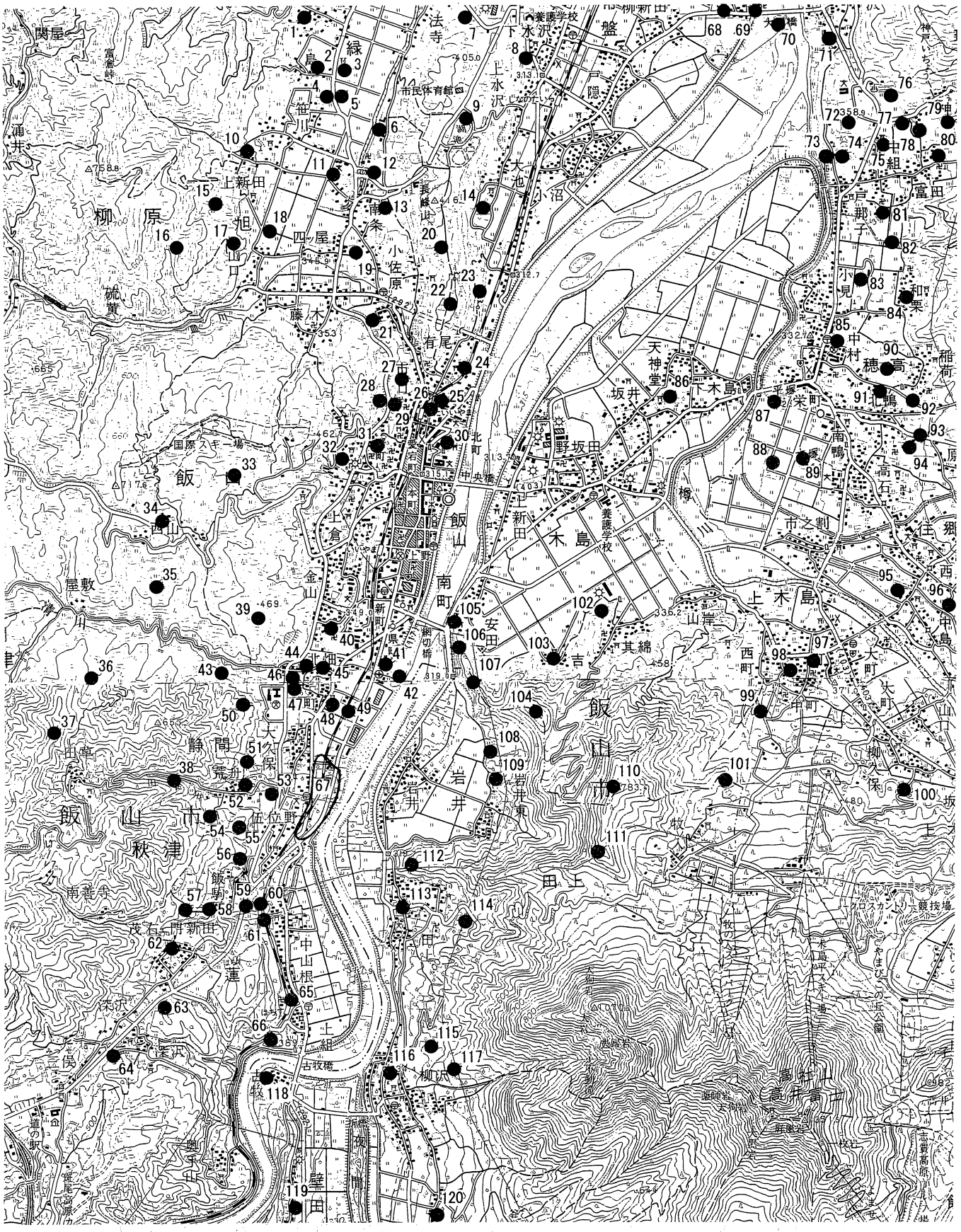


図１ 周辺の遺跡（S=1:50,000）

田草川尻遺跡周辺の遺跡

1. 中条館跡 2. 島（縄）3. 布施田神社（平）4. 別府原（縄・古・平）5. 笹川（縄）6. 正行寺北（縄・平）7. 長峰遺跡群（旧・弥）8. 下水沢（平）9. 針湖池（旧・縄・弥・平）10. 上新田（弥）11. 北原（縄・弥・平・中）12. 南條（中）13. 東源寺（平）14. お茶屋・大池1号・2号墳（縄・弥・古）15. 四ツ屋小城 16. 山口城 17. 山口御屋敷（中）18. 鍛冶田（縄～中）19. 鬼ヶ峰・小佐原・小佐原城（縄～中）20. 長峰（旧）21. 須多ヶ峯（縄・弥・古）22. 有尾1～3号墳 23. 長者窪・林子畑（縄～平）24. 有尾（縄～近）25. 北町（縄～近）26. 北飯山（縄）27. ガ二沢上（縄・弥）28. 大聖寺池（縄）29. 神明町1～4号墳、天地経塚（中）30. 飯山城（中・近）31. 雨池北（弥・古）32. 飯山シャンツェ下（縄）33. 直坂（縄）34. 十三ヶ丘（縄・弥・平）35. とんば城 36. 田草オヤチ（縄・平）37. 田草城 38. 小田草城 39. 北畑北（縄・古）40. 法伝寺古墳 41. 小屋解（平）42. 清川尻（縄）43. 平山（弥）44. 北畑館 45. 北畑（弥・平）46. 静間館 47. 静間神社南（弥・平・中）48. 京ノ町（縄）49. 中町郷谷（古・平・中）50. 法花寺古墳群 51. 山ノ神（縄）52. 舟山古墳 53. 五位野（縄・弥・平）54. 荒船（縄）55. 勘介山古墳 56. 道源沢（縄）57. 駒立（平）58. 駒立館 59. 五里久保古墳群 60. 五里久保（縄）61. 山根（縄）62. 茂右ヱ門新田（縄）63. 深沢（縄）64. 深沢城跡 65. 上組（弥）66. 蓮城 **67. 田草川尻（縄・弥・古・奈・平・中）** 68. 大倉崎Ⅲ（弥・平）69. 大倉崎（先・縄）70. 瀬附（旧・縄）71. 関沢（旧）72. 宮中（縄）73. 千苅（先・平）74. 犬飼城 75. 城の前（旧）76. 飯縄堂（狐塚）古墳 77. 猿飼田（平）78. 神戸1・2号墳 79. 神戸城 80. 木原（旧・縄）81. 尾崎（弥・平）82. 北和栗（縄・弥）83. 野畦（縄・弥・平）84. 和栗古墳 85. 稲荷境（縄・平・中）86. 鬼神堂（中）87. 平塚（弥・平・中）88. 根塚（弥・平・中）89. 大塚（縄）90. 狐崎（縄）91. 蟹沢（縄）92. 三枚原（縄・弥・平）. 93. 北鴨（縄）94. 小原（縄）95. 梨ノ木（弥）96. 計見小路（縄・弥） 97. カマバ（縄・平） 98. 立町（縄）99. 西町小路（縄・平） 100. 与助沢（縄） 101. 中小屋小丸山砦 102. 其綿古墳群 103. 吉（縄・弥） 104. 岩井城 105. 安田神社（旧）106. 飯縄山古墳群 107. 下山（中）108. 月岡（弥・平）109. 岩井1・2号墳 110. 中小屋（中）111. 木島氏山城 112. 日向1～3号墳・日向塚 113. 田上遺跡（平・中）114. 大洞（平・中） 115. 小丸山古墳 116. 柳沢（弥）117. 棚平旗塚（中）118. 古牧（弥）119. 壁田（弥～中）120. 七ッ鉢（縄）

※旧：旧石器　縄：縄文　弥：弥生　古：古墳　奈：奈良　平：平安　中：中世　近：近世

旧石器時代　飯山盆地から栄村、新潟県津南町にかけては、旧石器時代の遺跡が密集することで知られている。東には栄村小坂遺跡、飯山盆地内には飯山市太子林・日焼・上野・関沢(71)などの著名な遺跡が多い。飯山盆地南側では、飯山市木島地区の安田神社遺跡(105)で黒曜石製の細石刃核が発見されている。

縄文時代　遺跡動向は長野県下の傾向とほぼ一致し、前期から中期にかけて遺跡数が増加し、細かい増減を経ながら、後期から晩期にかけて減少するようである。

草創期・早期の遺跡は千曲川から離れた丘陵部などに点在し、表裏施文の回転縄文系土器群や押型文の発見された遺跡は十三ヶ丘遺跡(34)、田草オヤチ遺跡(36)など、いずれも山地に所在している。前期から中期になると、荒船遺跡(54)や茂右ヱ門新田遺跡（62）などの扇状地の扇頂部、さらに田草川尻遺跡などの扇端部にも立地するようになる。

田草川尻遺跡から 2.2km 北の丘陵上に位置する深沢遺跡(63)は、中期前葉を中心とした集落遺跡で、40 個体以上の土偶や北陸の影響を受けた土器群が出土しており、「深沢式土器」が提起されている。

晩期には、田草川扇頂部に位置する山ノ神遺跡(51)で多くの痕跡が発見されている。山の神遺跡で出土した椀形土器片に線刻で描かれた魚形線刻画は、サケやマス、またはシュモクザメを意識して描かれたものと推測されている。千曲川またはその支流に遡上するサケ・マスとの関係が注目されるところである。

弥生～古墳時代　飯山盆地では、田草川尻遺跡を中心とした田草川・清川扇状地末端部、長峰丘陵全体を覆う遺跡群、上野遺跡、須多ヶ峯遺跡(21)などがあり、千曲川右岸には月岡遺跡(108)、柳沢遺跡(116)などがある。中期後半の栗林期に信濃全体、特に善光寺平と

その周辺に遺跡数が急増する。後期初頭に遺跡数は減少し、後期前半箱清水期になり、再び遺跡数が増加する。

古墳に関しては調査例はないものの、当地点から 0.7km東の丘陵上にある勘介山古墳(55)、1.8km 北の法伝寺古墳(40)など、古墳時代前期の前方後方墳として認識されている古墳が点在している。法花寺古墳群(50)、五里久保古墳群(59)、神明町古墳群(29)は群集墳として注目される。古墳時代の集落は、弥生時代に引き続き、田草川尻遺跡、上野遺跡で生活痕跡が顕著であるが、時期的領域的に古墳と集落がどのように連動するかなど、検討すべき課題は多い。

田草川尻遺跡と隣接する中町郷屋遺跡(49)は、古墳時代を中心として、昭和 40 年代の圃場整備事業によって多くの遺物が確認されており、田草川尻遺跡と同様の小河川扇状地の扇端部に長期間にわたり営まれた集落であったことがうかがえる。

奈良・平安時代　古墳時代から奈良時代に移行する時期に飯山盆地で集落が減少し、その後集落遺跡は田草川尻遺跡、上野遺跡、鍛冶田遺跡(18)など数遺跡で痕跡が確認される。北原遺跡(11)では鍛冶遺構が検出されており、小佐原遺跡(19)では、隅丸長方形の土坑墓から完形の灰釉陶器、黒色土器、鉄釘などのが出土している。上野遺跡や鍛冶田遺跡でも竪穴住居跡のほかに、掘立柱建物跡、土坑墓が発見されている。

中・近世　城館跡については、本地点より 1.2km 北に志妻氏の城館跡との伝承がある静間館(46)がある。2.5km 北には田草城(37)、1.5km 北には田草城の支城と考えられる小田草城(38)があり、中世の遺物が出土している田草川尻遺跡との関係が想起される。

Ⅱ　田草川尻遺跡発掘調査の経緯

1．過去の調査（図 2）

国道 117 号線静間バイパスの敷設による周辺の開発に伴って、田草川尻遺跡の発掘調査は、昭和 47 年(1972)の第一次調査を皮切りに、今回で 15 地点(A～T 地点)にいたっている。

田草川河口がその中心と考えられ、特に右岸に多くの遺構を確認しており、左岸には土器と礫の集中する特殊遺構（祭祀遺構）が分布している。

縄文時代においては、前期中葉、中期初頭、後期前葉、弥生時代では、中期栗林式～後期箱清水式、特に箱清水式に良好なセットが認められる。古墳時代においては、和泉式～鬼高式期の土器や祭祀遺物、フイゴ羽口、平安時代では、主に 9 世紀後半から 10 世紀の土器が出土している。

本地点から 40m 西の S 地点では、平安時代の住居跡が検出されている。田草川河口から離れるにしたがい、遺構数は漸減すると推定され、S 地点でも 300 ㎡の調査区で住居跡 1 基、土坑墓 1 基、溝跡 1 基、ピットが検出されたのみであった。

住居跡数は、現在のところ弥生後期 4 基、古墳時代和泉期 8 基、鬼高期 6 基、平安時代 15 基が確認されおり、ほかに古墳時代祭祀遺構 2 基、溝跡、ピットなど、多数の遺構を検出している。

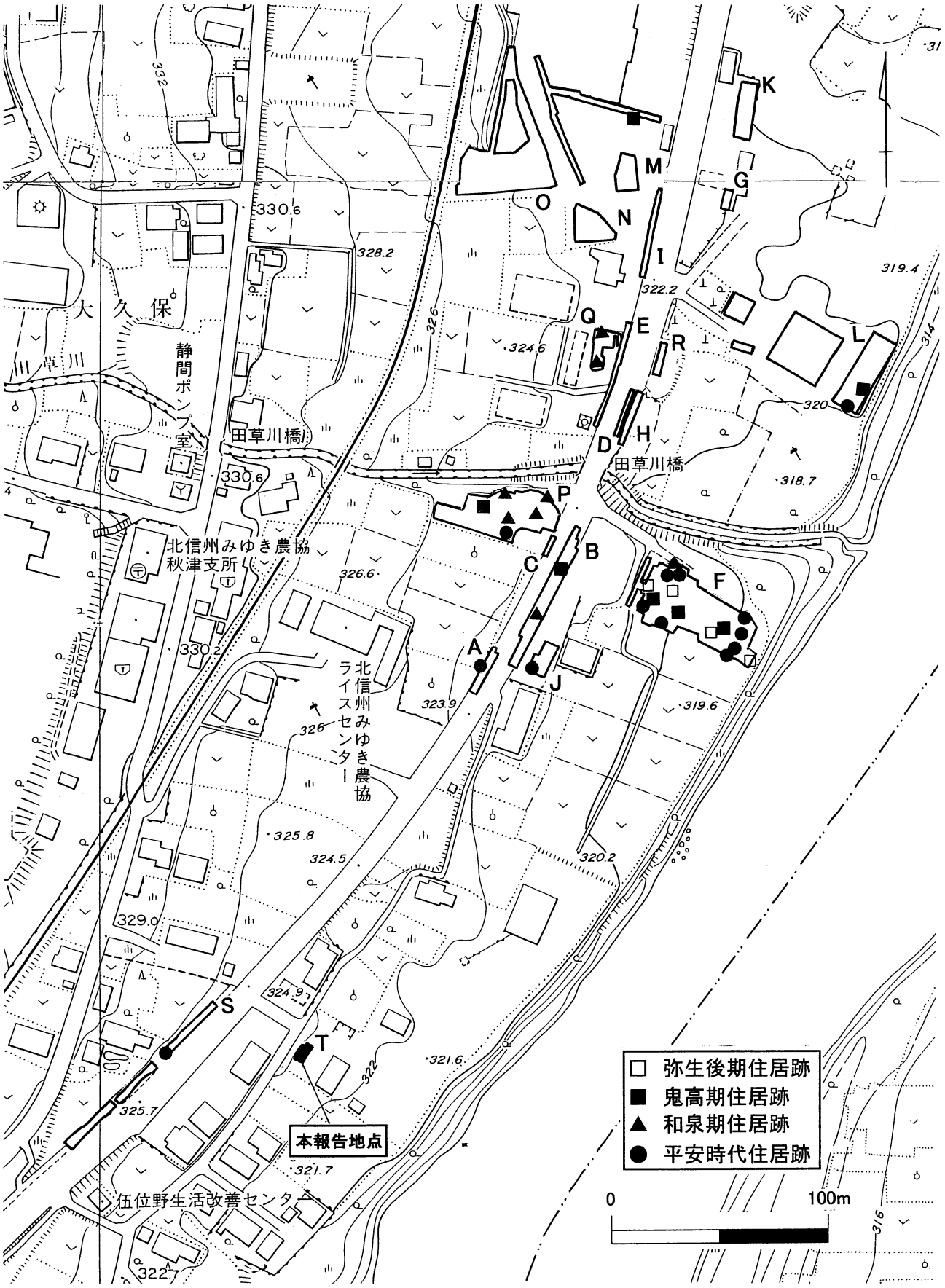


図2　田草川尻遺跡と調査地点（A～T 地点）

２．発掘の経緯

本調査は、株式会社シーテックが計画した携帯電話基地局の建設事業によるものである。

平成22年2月　文化財保護法第93条第1項による埋蔵文化財発掘通知が提出される。

平成22年4月6日　長野県教育委員会より事前調査の指示。

4月6日　株式会社シーテックと飯山市長との間で発掘調査委託契約を締結。

4月12日～4月16日　発掘調査を実施。

4月～7月　図面整理、トレース、図版作成、原稿執筆、報告書刊行。すべての作業が終了する。

Ⅲ　調査

調査は教育委員会学習支援課文化振興係が担当し、遺跡の範囲および時期的な変遷の把握を目的として行った。バックホウにより表土を除去した後、人力により遺構検出、掘削を行った。測量は平板とレベルを用い、手作業による土層断面図版を作成した。

出土した遺構は、集石遺構3基、ピット3基である。

基本層序（図6　DD´）は、上から埋土（耕作土）、黒色土、暗褐色土、黄褐色土へと遷移していく。調査区内ではほぼ水平堆積である。調査区の南側には、暗褐色土と黄褐色土の間に厚さ3～5cmの茶褐色土の堆積が観察できた。遺構は暗褐色土下層～黄褐色土上層で検出され、黄褐色土直上のレベルで礫が集中する傾向がうかがえた。

調査区北側は黄褐色土層中に径0.5～20cmの礫が多量に混入している様子が観察された。南側に行くにしたがい礫混じり層は薄くなることから、北側から南側への洪水堆積層である可能性がある。

調査区中央に過去の埋立て時にごみ穴として掘ったと思われる撹乱が深く入っており、また調査区北西隅は木の根による多少の撹乱があると考えられる。遺構確認を行ったのは全体の半分ほどの面積であること、また遺物が出土しなかったことで、当地点の詳細な様相をつかむことはできなかった。

１．集石遺構（図5・6）

集石遺構1

現地表下60cmの深さで、暗褐色土を除去する過程、黄褐色土直上で検出された。調査区の北端に分布する円～亜角礫の集合体で、浅いピットを伴うドーナツ状の集石である。直径100cmで、集石2と隣接している。

集石遺構2

現地表下60cmの深さで、暗褐色土を除去する過程、黄褐色土直上で検出された。集石1と接する長径100cm、短径80cmのドーナツ状の集石である。周囲にも同レベルで円～角礫の集合が見られるが、境界が不鮮明なため、遺構と認識しなかった。

集石遺構3

現地表下70cmの深さで、暗褐色土を除去する過程、茶褐色土～黄褐色土直上で検出され

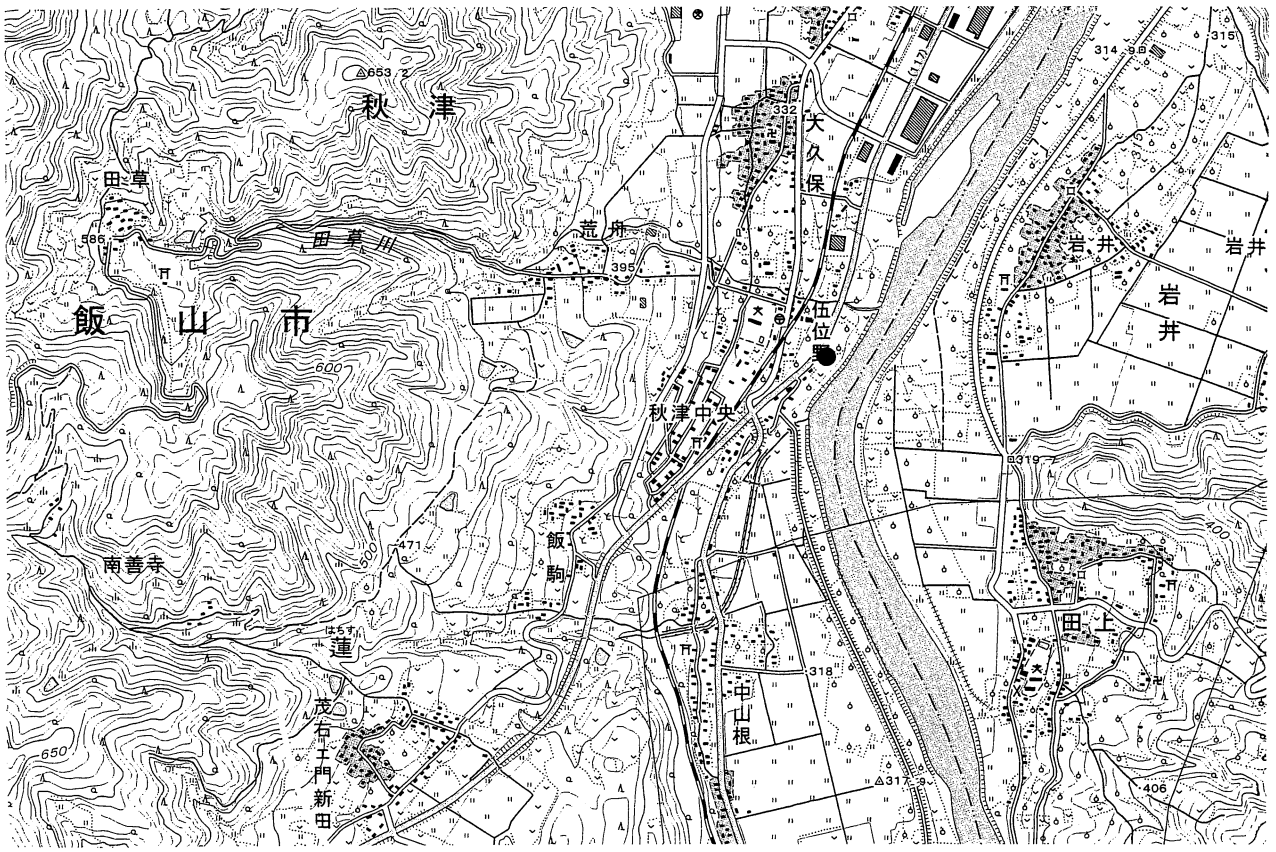


図３　田草川尻遺跡Ｔ地点位置図（S=1:25,000）

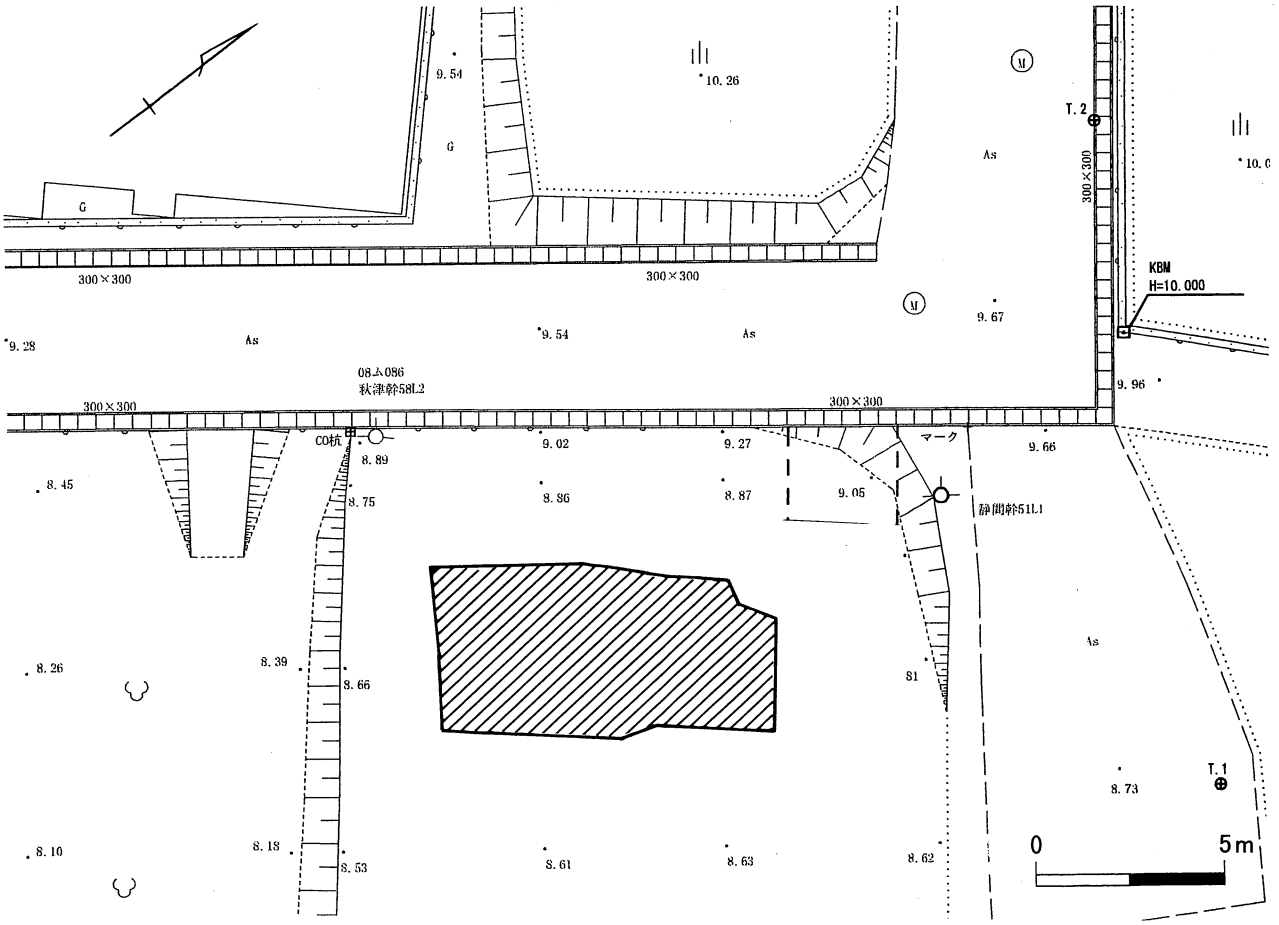


図４　田草川尻遺跡調査区設定図（S=1:200）

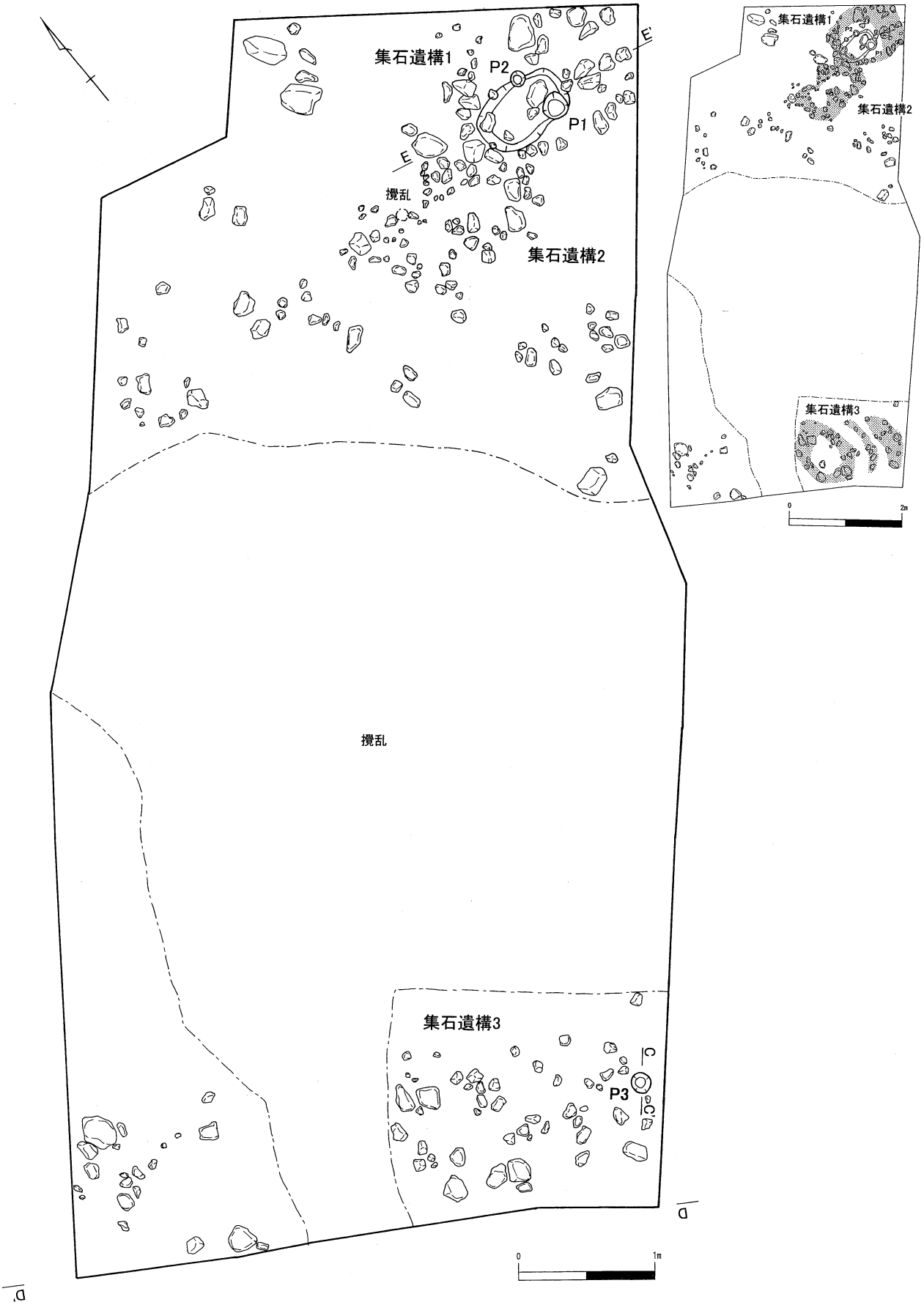


図5　全体図（S=1:40、1:100）

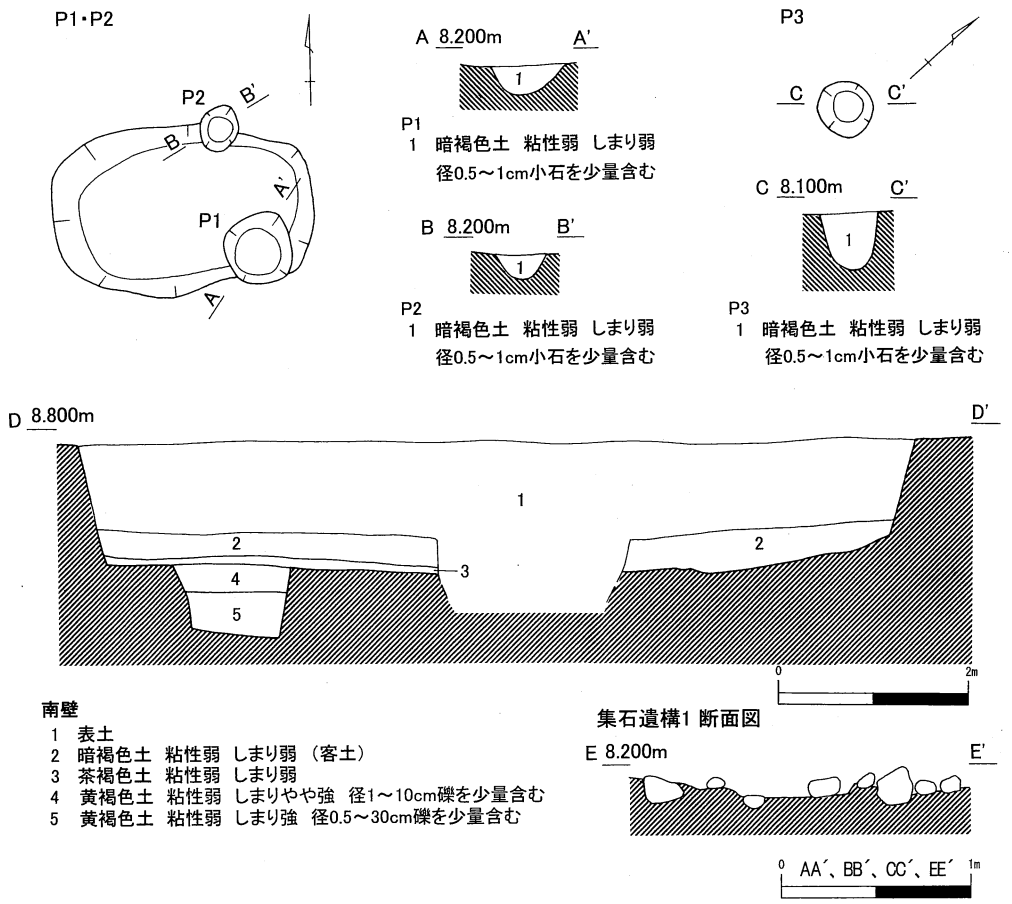


図6 遺構個別図 (S=1:20、1:40)

た。調査区の南端にあり、3重の円環状構造であると推測されるが、撹乱の影響があり詳細は不明である。

2．ピット (図5・6)

ピット1 (P1)

集石1の中央に位置する石をはさんで、ピット2と対面する位置に検出された。長軸20cm、短軸17cm、深さ8cmの掘り込みで、暗褐色土の堆積である。

ピット2 (P2)

集石1の中央に位置する石をはさんで、ピット1と対面する位置に検出された。長軸13cm、短軸10cm、深さ7cmの掘り込みで、ピット1と同様の暗褐色土の堆積である。

ピット3 (P3)

集石3の周縁に検出され、直径15cmの円形の掘り込みで、覆土は暗褐色土である。

3．まとめ

本地点から800m北西の扇状地扇頂に位置する山ノ神遺跡では、縄文時代の集石遺構が検出され、集石の直下から魚形線刻文画土器片（縄文晩期比定）が出土している。礫の密集度や遺構の規模、遺物の出土状況などを見ると、単純に比較することはできないものの、円礫、亜角礫をリング状に配し、中心に小ピットを伴う形状は本地点の集石遺構と類似す

るところが多い。鍛冶田遺跡でも同様の集石遺構が確認されている。

また、田草川尻遺跡 D 地点で確認された祭祀遺構は、集石と同レベルに古墳時代の土器を伴っているが、「礫群は1層のみで厚くなく、その下部は田草川の河床礫となっている。」という特徴は、当地点の集石遺構と重なるものがあり注目される。祭祀遺構の周辺にも礫群が広がっていると記述されている。

Ⅳ　結語

今回の調査では、集石遺構 3 基、ピット 3 基が検出された。ピットは集石遺構周辺で確認されており、集石遺構関連ピットである可能性がある。

集石遺構には遺物が伴っておらず、上下の層からも礫の出土があることから、自然堆積によるものというとらえ方もできるが、一定の層位レベルにある程度同規格の石が並んでいること、山ノ神遺跡、田草川尻遺跡 D 地点など周辺でも同様の集石遺構が確認されることから、ここでは時期は不明ながら人為的な活動の痕跡ととらえたい。

当地点は遺跡の南端にあたり、今まで詳しいデータが得られていなかった。面積は限られているものの、この地点での遺構の広がりや土層堆積を把握できたことは、田草川尻遺跡について述べるにあたり、重要な一資料となると考えられる。

参考文献

飯山市教育委員会 1973　『田草川尻遺跡緊急調査発掘報告書』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 1 集

飯山市教育委員会 1978　『田草川尻遺跡Ⅱ』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 8 集

飯山市教育委員会 1984　『田草川尻遺跡Ⅲ　付　清川尻（小屋解）遺跡調査報告』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 9 集

飯山市教育委員会 1986　『田草川尻遺跡Ⅳ』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 13 集

飯山市教育委員会 1988　『田草川尻遺跡Ⅴ』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 17 集

飯山市教育委員会 1991　『田草川尻遺跡Ⅵ』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 27 集

飯山市教育委員会 1991　『田草川尻遺跡Ⅶ』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 28 集

飯山市教育委員会 1992　『田草川尻遺跡Ⅷ』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 33 集

飯山市教育委員会 1996　『田草川尻遺跡Ⅸ』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 50 集

飯山市　1993『飯山市誌』歴史編上巻

飯山市教育委員会 1986　『飯山の遺跡』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 14 集

飯山市教育委員会 1994　『南原・深沢遺跡』飯山市埋蔵文化財調査報告第 37 集

長野県埋蔵文化財センター2010『月岡遺跡　北陸新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告 8 －中野市内その 2－』

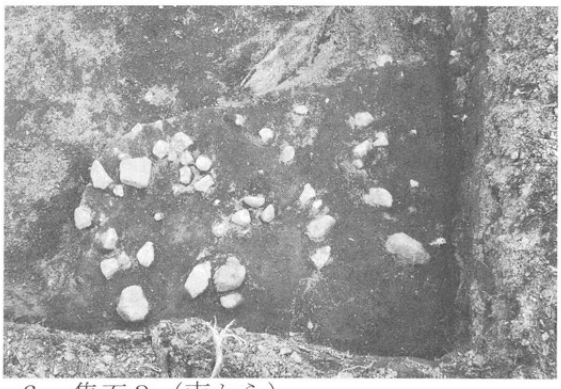
1．T地点から千曲川を望む（西から）

2．表土除去（北西から）

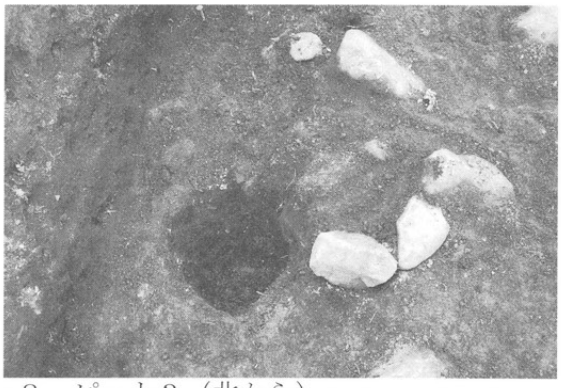
3．調査風景（北東から）

4．完掘（北から）

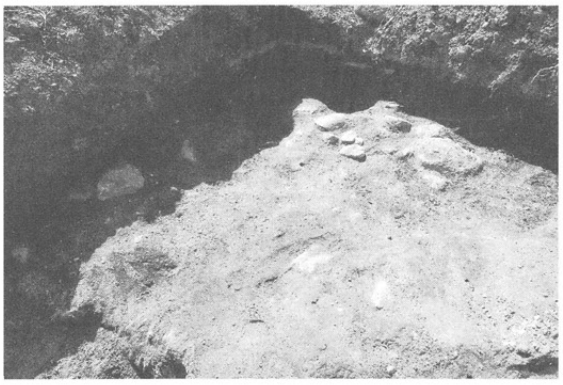
5．集石1・2（北から）


6．集石3（南から）

7．集石1、ピット1・2（東から）


8．ピット3（北から）

9．南壁（北から）



10．調査区南西（北東から）

11．完掘（南から）

12．秋津小６年生発掘体験（北から）

今井遺跡群

例　　言

１．本書は、長野県飯山市大字常郷字大明神 2463 番地 7 に位置する今井遺跡群の発掘調査報告書である。

２．発掘調査は、携帯電話基地局（鉄塔）建設事業に伴い、株式会社シーテック　モバイルシステム部より委託を受けた飯山市教育委員会が、平成 22 年 4 月 26 日から 5 月 6 日にかけて実施したものである。

３．調査体制は以下のとおりである。

土 屋　稔　　飯山市教育長
森　　勝　　飯山市教育部長
中原美恵子　　飯山市教育委員会学習支援課長
望月　静雄　　同　学習支援課長補佐（兼）文化振興係長
田中　洋道　　同　学習支援課文化振興係主査
調査担当者　大平　理恵　　同　学習支援課学芸員
作業参加者　（五十音順・敬称略）
木原　喜正・高橋　栄一・東條　一二・二ノ宮　正徳
協力者・機関　丸山　英徳（地権者）・太田地区活性化センター・清水重右エ門

４．図面等の整理ならびに報告書の執筆は、望月の監修のもと、調査担当の大平が行った。

５．調査にかかわる写真・図版等は飯山市ふるさと館に保管してある。

目　　次

例言
Ⅰ　遺跡の位置と環境
１．地理的環境　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
２．歴史的環境　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
Ⅱ　今井遺跡群の発掘調査
１．発掘の経緯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
２．調査の成果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
Ⅲ　結語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

Ⅰ　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

今井遺跡群は、雨池グラウンド遺跡(24)・雨池下遺跡(25)・大明神遺跡(26)・赤羽根遺跡(27)の総称で、大字常郷字雨池、竹カ花、大明神、赤羽根などを含む丘陵上に長さ約150m、幅約 30m の範囲で細長く展開する遺跡群である。長野県最北の盆地である飯山盆地が終息する飯山市太田地区に位置し、東は千曲川を境として野沢温泉村、西側に走る関田山脈をへだてて新潟県、北側では両岸山地が千曲川にせまり狭い谷を形成しながら栄村にそれぞれ接している。

本地点の標高は450mで、千曲川が形成する沖積地から台地へ遷移する千曲川に迫る丘陵を800m上り、周囲よりも小高い独立丘陵の様相を呈する。550m西には今井川が南行し、800m北には運上川が西行し千曲川と合流する。

千曲川は飯山盆地を抜けると、山の迫った狭い谷を蛇行して北流する。信濃国境の峡谷地帯丘陵上の比較的平坦な地には、多くの遺跡が残されており、過去には千曲川を中心とした水運や街道により、人やものの往来が頻繁であったと考えられる。

関田山脈の基盤は３紀層とされ、頂上はおおむね1,000mを示すが、全体として急峻でなくいくつかの峠道によって新潟県上越地方との往来があった。古来より千曲川沿いには新潟県十日町市へ通じる「十日町街道」が開けており、北信一帯の主要道路の一つとなっていたが、この十日町街道を軸に関田山脈越えの峠道が何本も形成されていた。とくに、近世代まではこれら峠道から塩・米・魚・酒かす等が、長野からは内山紙、箕等が運ばれ、重要な輸送路だったとされている。今井遺跡群は、十日町街道を西側に見下ろす高台に形成されたと考えられる。

2　歴史的環境（図7）

今井遺跡群周辺では過去の発掘調査例がなく、各遺跡の範囲や時期などの詳細は不明な部分が多い。分布調査により、旧石器時代の尖頭器、掻器、剥片のほか、弥生時代の土器、石鏃、古墳時代の土器などが表採されている。以下に丘陵部を中心とした今井遺跡群周辺の各時期の概略を示す。

飯山盆地から栄村、津南町にかけては、旧石器時代の遺跡が密集することで知られている。飯山市新堤(11)、トトノ池南(15)、野沢温泉村蕨平遺跡などは石器群も豊富である。オリハンザ遺跡(2)では細石刃やポイント、上ノ原遺跡(88)では尖頭器、掻器が出土しており、丘陵部で人々の活動があったことを想起させる。

最古の縄文時代遺跡としては飯山市カササギ野池遺跡で爪形文土器が発見されている。遺跡の規模は小規模である。中期には野沢温泉村岡ノ峯、平林A(22)、七ヶ巻、飯山市向原遺跡(10)など、大規模で豊富な遺物が出土する遺跡があらわれる。後期に入ると、東原遺跡、野沢温泉村蕨平、岡ノ峯遺跡などで石棺墓が確認されており、縄文時代墓制研究のうえで重要な地域となっている。

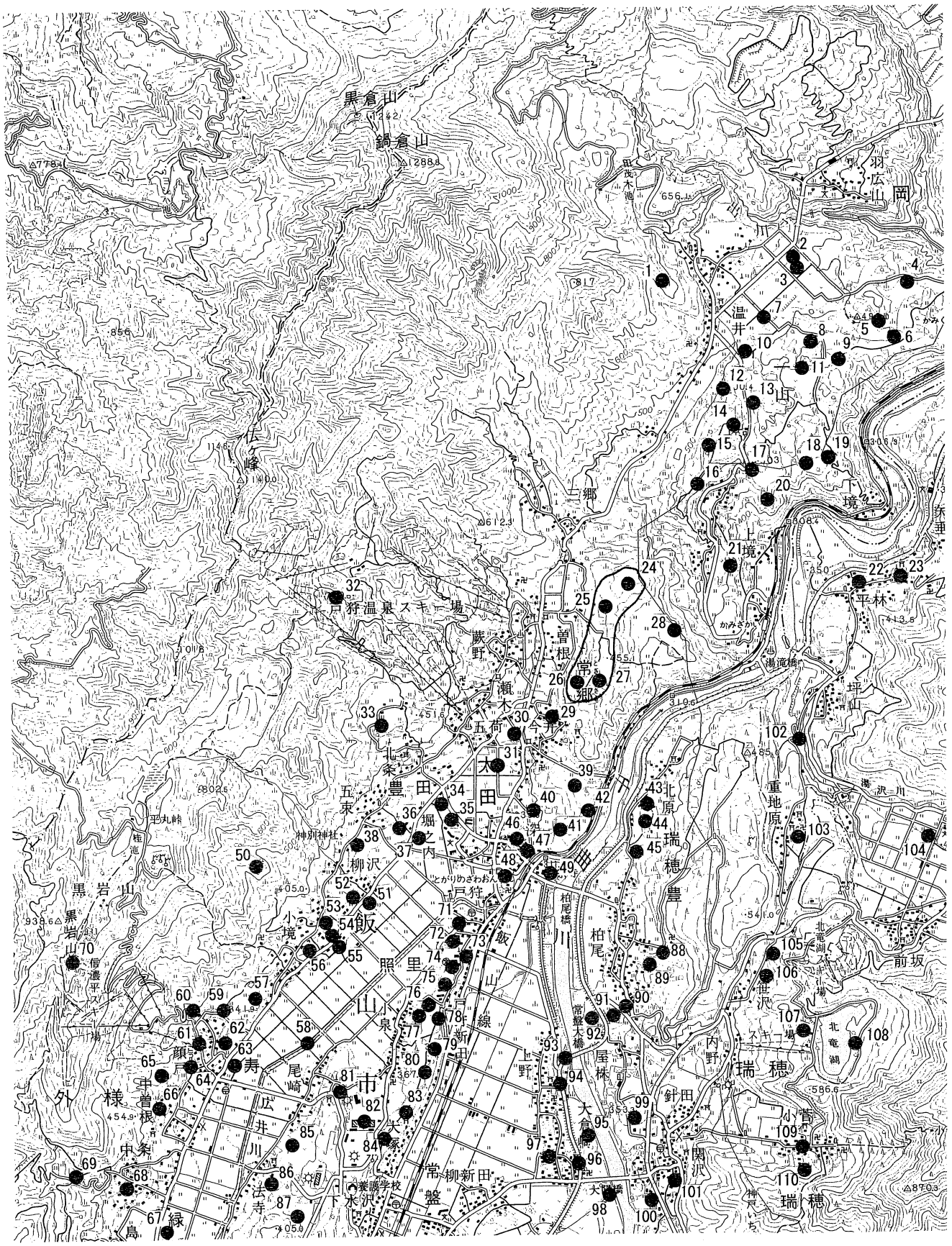


図７　周辺の遺跡（S=1:50,000）

今井遺跡群周辺の遺跡

1.温井城 2.オリハンザ（旧・縄）3.水の沢（旧・縄）4.藤屋の堤（縄）5.雨池（縄）6.休場（縄）7.長者清水（平・中）8.カツボ池上（平）9.鳴沢頭（縄・平）10.向原（縄）11.新堤（旧・縄・平）12.温井（仮称、旧）13.中塚谷地（先・平）14.トトノ池（先・平）15.トトノ池南（先・平）16.西外峰（旧・縄）17.上塚（旧）18.カツボ池（縄・平）19.下境（平）20.下境城 21.中外（旧・縄）22.平林A（縄）23.平林B（平）**24. 雨池グラウンド（旧）25.雨池下（旧 or 縄）26.大明神（弥・古）27.赤羽根（旧）**28.小平（縄）29.島崎古墳 30.今井館 31.五庁（縄）32. 北条城 33. 北条（b）（縄）34.堀ノ内館 35.佃（古 or 平）36.横井（縄・弥）37.堀ノ内馬場（弥）38.五束（縄・平）39.千駄坊（縄）40.五庁東（弥） 41.割山（縄・弥・平）42. 千駄坊南（縄・弥）43.中原（縄）44.猫屋敷（弥・古）45.北原館 46.大深（平～中）47.中山（縄）48.岡峰（縄・弥・平）49. 真宗寺裏（先～平）50.小境城 51.柳沢A（縄・古）52.柳沢B（弥）53.鶴屋敷（弥）54.桜沢（古 or 平）55.小境（弥・平）56.押出（弥・古）57.顔戸館 58.尾崎館 59. 顔戸第5（縄）60. 顔戸大天狗（弥）61. 顔戸南木ノ下（縄・弥）62. 北顔戸（平）63.顔戸道下（縄）64.釜渕（縄・弥・平・中）65.中小屋城 66.中条城 67.布施田神社（平）68.島（縄）69.馬の峯城 70.黒岩城 71.旧照里小学校（弥）72.光明寺前（弥）73.照里9号墳 74.照丘（弥・古）75.照里8号墳 76.照里1号墳 77.照里2号墳 78.照里古墳群 79.茶臼山古墳群 80.大塚（旧～近）81.柳町（弥・古）82.両面寺（弥）83.小泉（弥）84.大塚古墳群 85. 山崎8（弥）6.下林（弥）87.法寺（弥）88.上ノ原（縄）89.柏尾館 90.堺ノ沢（弥）91.南原（縄）92.日焼（旧）93.大倉崎館 94.上野（旧～平）95.大倉崎Ⅱ（縄・平）96.大倉崎（旧・縄）97.大倉崎Ⅲ（弥・平）98.瀬附（旧・縄）99.太子林（旧）100.関沢（旧）101.関沢館 102. 坪山（縄）103. 重地原（縄）104.岡ノ峯（縄）105.道添（縄）106.水出口（縄）107.北竜湖（旧～平）108.大菅（平・中）109.小菅神社里宮（縄・平）110.南竜池（平）

※旧：旧石器　縄：縄文　弥：弥生　古：古墳　奈：奈良　平：平安　中：中世　近：近世

弥生時代の遺跡は飯山盆地を北限として北側の丘陵地帯には確認されていない。飯山盆地を見渡すと、千曲川に沿った独立丘陵である長峰丘陵上には小泉遺跡(83)、柳町遺跡(81)など大規模な集落遺跡が密集しており、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑墓など多数の遺構・遺物を確認している。ほかにも沖積地に多くの遺跡が発見されるようになる。

古墳時代においては、近隣での調査例はないが、東原遺跡に近接した馬場地籍には二基の古墳が確認されている。付近より土取りした際に勾玉や直刀が発見されており、周辺に古墳が存在していた可能性が高い。

奈良時代から平安時代前期の活動痕跡は認められていない。平安時代中期以降になると、飯山市長者清水(7)、新堤(11)、トトノ池南(15)、野沢温泉虫生、平林A遺跡(22)など再び多くの遺跡が確認される。

中世には文献資料にも飯山周辺の記述があらわれるようになり、『吾妻鏡』や『市河文書』にある常岩（常盤・常葉）牧は外様平～常盤平に広がっていたと推定されている。本地点より7km北に位置する長者清水遺跡は、平安時代の住居跡が検出されているが、主体は14～15世紀ごろの城館であり、堀をめぐらせた建物跡が検出され、多くの陶磁器や珠洲焼、かわらけ、宋銭、明銭、刀子などが出土している。釜渕遺跡(64)では、永仁四年（1296）銘の呪符木簡、鳥型木製品、漆椀などの豊富な木製品が出土している。

Ⅱ　今井遺跡群の発掘調査

1．発掘の経緯

本調査は、株式会社シーテックが計画した携帯電話基地局の建設事業によるものである。

平成22年2月　文化財保護法第93条第1項による埋蔵文化財発掘通知が提出される。

平成22年4月6日　長野県教育委員会より事前調査の指示。

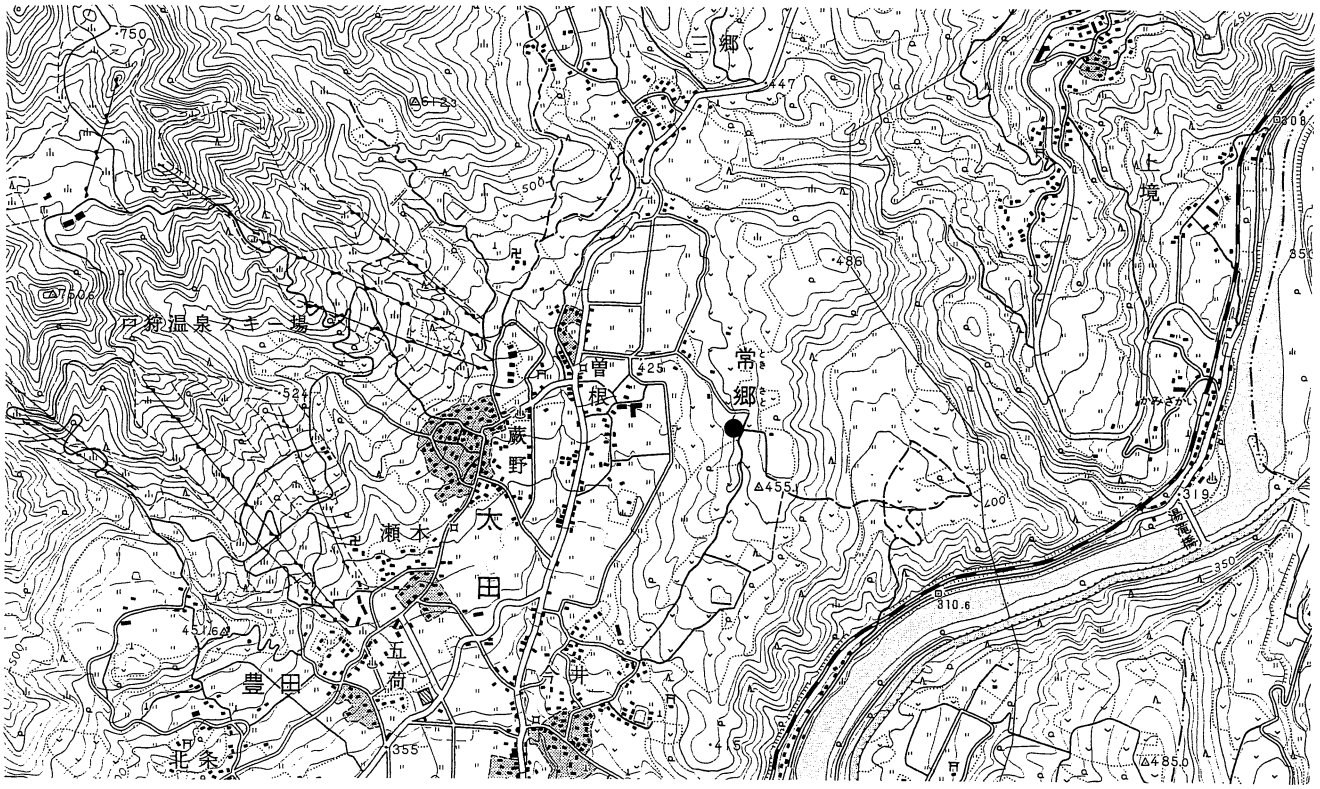


図 8　今井遺跡群調査地点（S=1:25,000）

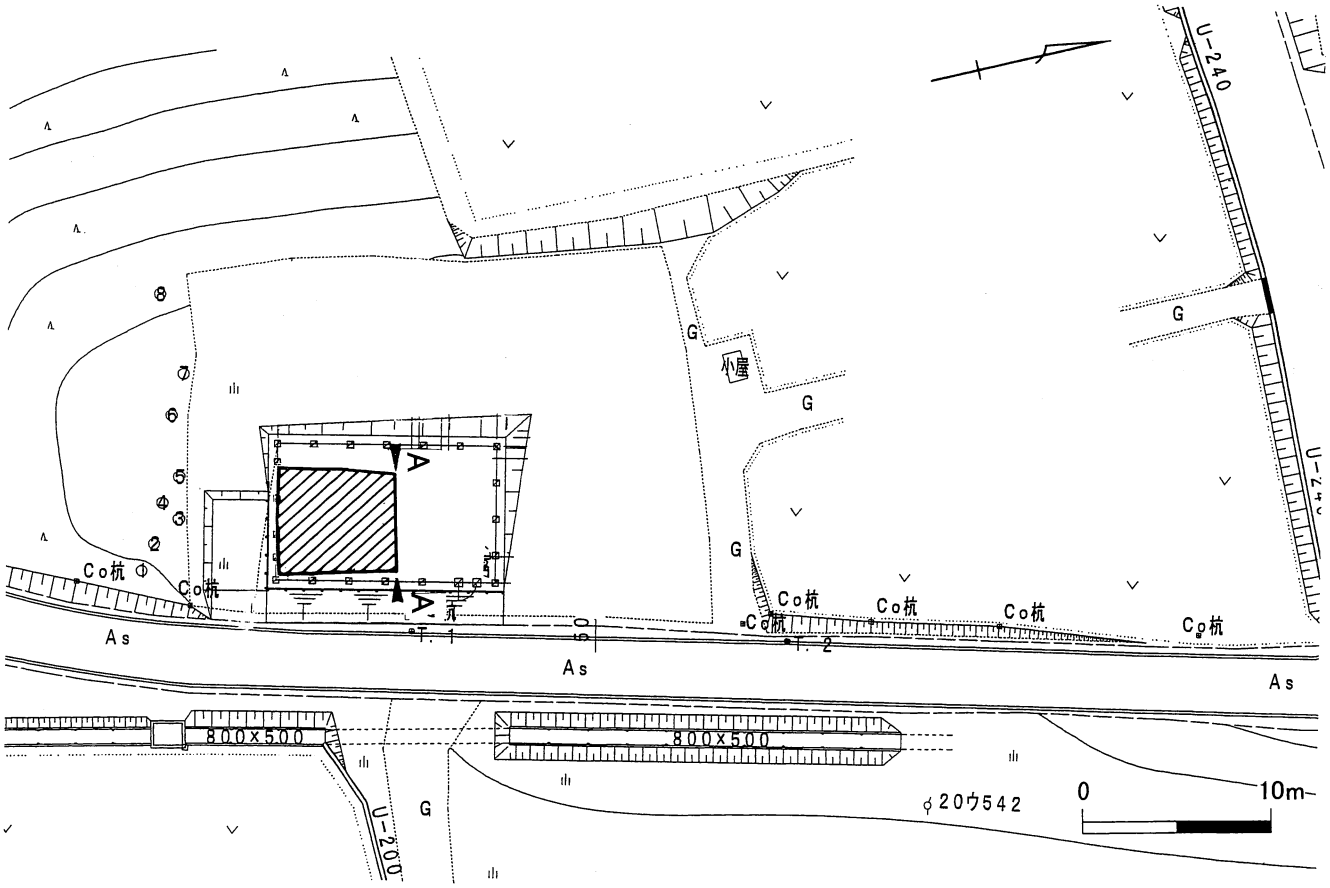


図 9　今井遺跡群調査区設定図（S=1:400）

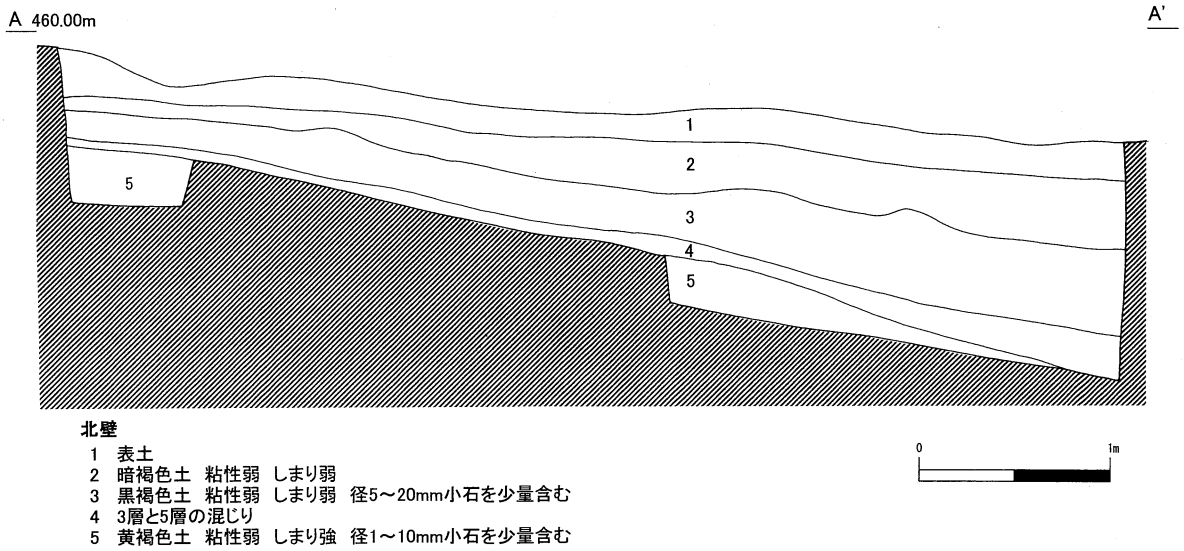


図 10　調査区北壁（S=1:40）

4 月 6 日　株式会社シーテックと飯山市長との間で発掘調査委託契約を締結。
4 月 26 日～5 月 6 日　発掘調査を実施。
5 月～ 7 月　図面整理、トレース、図版作成、原稿執筆、報告書刊行。すべての作業が終了する。

2．調査の成果

調査は、教育委員会学習支援課文化振興係が担当し、遺跡の範囲および時期的な変遷の把握を目的として行った。人力により表土剥ぎ、遺構確認、埋戻しを行い、平板とレベルを用いて調査区平面と土層断面の測量を行った。調査期間は 4 月 26 日から 5 月 6 日、調査面積は 35 ㎡であった。

基本層序は、上から耕作土、暗褐色土（客土）、黒褐色土、暗褐色土と黄褐色土の混じり、黄褐色土へと遷移していき、各層に直径 1～10cm の礫が少量混じる。西から東へ向かって落ち込む地形で、黄褐色土直上での比高差は調査区の西端と東端で 130cm の違いがあり、東側（道路側）に向かい、急激に落ち込む地形が確認できた。

黄褐色土層上面まで層位ごとに掘り下げ、北側、西側の壁際に幅 50cm のサブトレンチを設定してさらに 20cm 掘り下げた。遺構・遺物は確認されなかった。

Ⅲ　結語

今回の調査では、遺構は確認されなかったものの、西側の丘頂から東側の沢へ向けて落ち込む地形の斜面部分であることが把握できた。周辺の畑から土師器小片が採集されるこ

とから、住居跡等の生活痕跡が西側または隣接する丘頂部に展開していると推定される。東側に沢の存在が推定され、現在の畑や道路は沢を埋め立ててつくられていると考えられる。

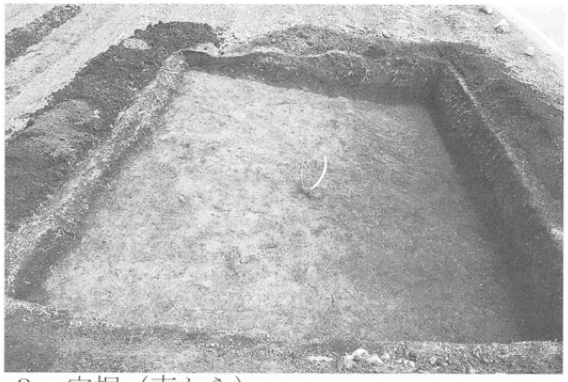
今井遺跡群は、雨池グラウンドに安山岩の産出が推定されているほかは、今まで詳しい様相は不明であった。面積は限られているものの、この地点でのデータが得られたことは、この遺跡群の性格を判断するうえで重要な検討材料となると考えられる。

参考文献

飯山市　1993『飯山市誌』歴史編上巻
飯山市教育委員会 1980　『北原遺跡調査報告書』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 4 集
飯山市教育委員会 1985　『長者清水・水の沢遺跡－昭和 59 年度県営圃場整備事業温井地区発掘調査報告－』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 11 集
飯山市教育委員会 1986　『飯山の遺跡』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 14 集
飯山市教育委員会 1988　『釜渕・北顔戸遺跡』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 16 集
飯山市教育委員会 1991　『国営飯山農地開発関係遺跡発掘調査報告Ⅰ　新堤遺跡・トトノ池南遺跡』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 24 集
飯山市教育委員会 1992　国営飯山農地開発関係遺跡発掘調査報告Ⅱ　『鳴沢頭Ⅰ・鳴沢頭Ⅱ・カササギ野池・休場・下境大原遺跡』
飯山市埋蔵文化財調査報告第 32 集
飯山市教育委員会 1995　『小泉弥生時代遺跡』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 42 集
飯山市教育委員会 1995　『柳町遺跡』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 44 集
飯山市教育委員会 1996　『上野Ⅷ・柳町遺跡』　飯山市埋蔵文化財調査報告第 53 集
長野県史刊行会 1982　『長野県史　考古資料編（2）主要遺跡（北・東信）』

1．着手前（南東から）

2．調査風景（南東から）



3．完掘（南から）

4．土層堆積状況（南から）

5．土層堆積状況（東から）

6．調査風景（西から）

報告書抄録

ふりがな	たくさかわじりいせきじゅう・いまいいせきぐん
書　　名	田草川尻遺跡Ｘ・今井遺跡群
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	飯山市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 76 集
編著者名	大平理恵
編集機関	飯山市教育委員会
所 在 地	〒389-2253　長野県飯山市大字飯山 1436－1　　TEL 0269－62－3342
発行年月日	2010 年　7 月 20 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調　査 期　間	調　査 面　積	調　査 原　因
田草川尻 たぐさかわじり	長野県 ながのけん 飯山市 いいやまし 蓮字北原 はちすあざきたはら	20213	135	36° 49′ 26″	138° 21′ 07″	20100412 ～ 20100416	38 ㎡	通信基地局（鉄塔）
今井遺跡群 いまいいせきぐん	長野県 ながのけん 飯山市 いいやまし　常郷 ときさと 字大明神 あざだいみょうじん	20213	25 26 27 28	36° 56′ 13″	138° 24′ 06″	20100426 ～ 20100506	35 ㎡	通信基地局（鉄塔）

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田草川尻遺跡	集落跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平安 中世・近世	集石遺構　3 ピット　　3	－	－
今井遺跡群	遺物 包蔵地	－	－	－	集落の本体は 西側丘頂部か

飯山市埋蔵文化財調査報告　第 76 集

田草川尻遺跡Ｘ・今井遺跡群

平成 22 年 7 月 20 日発行

編集・発行　飯山市教育委員会

長野県飯山市大字飯山 1436－1

印　　刷　足立印刷所